



ら話をする嘉助さんの顔をじつと見つめました。

与右衛門「そうですか。それはたいへん気の毒なことだ。何とかしてあげたい。」

と言って、考え込みました。

⑧ **与右衛門**「次に弥平さんの田んぼはどうですか。やはり、お米はだめになりそうですか。」

与右衛門さんは、弥平さんの目をじつと見てたずねました。少し高いところ田んぼがあつて被害の少ない弥平さんでしたが、心の中では、『私の田んぼも、稲が水につかまつてしまつて困つています。』と言つつもりでした。しかし、

弥平「私の田んぼは少し高いところにあつて、大雨の被害も少なく今年は何とかお米がとれそうです。」
弥平さんは、与右衛門さんの優しい言葉や心づかいにどうしてもうそをつくことができず、本当のことを



話しました。与右衛門さんは優しくうなづきました。

与右衛門「それはよかつた。これからもお世話にはげんでください。」

⑨ みんなの話を聞き終わった与右衛門さんは、相談に来た人たちに言いました。

与右衛門「みなさんのお話はよくわかりました。年貢を減らしたり、無くしたりすることは、大変大き



な問題です。しかし、みなさんの願いが叶うように、奉行として努力します。安心して、今日はこれでお帰りください。そして、みなさんや家族の人たちが、病気などにかからないように気をつけてがんばってください。」

農民たちは、ほつとして奉行所を出ました。

太吉「嘉助さん、やつぱり相談に来てよかつたなあ。」

嘉助「そうだ、そうだ。優しいお奉行様で本当によかつた。」

弥平「あのお奉行様ならきつと何とかしてくださるよ。」

みんなは与右衛門さんの優しい言葉や家族への温かい心づかいに感謝しながら帰っていききました。

このように、与右衛門さんはたくさん農民の相談を受けました。

⑩ 〽 〽 半分抜く 〽 〽
与右衛門さんはお城へ上がりました。

そして、ご家老さまに言いました。

与右衛門「被害はたくさん出ています。そこで、被害の大きい田んぼについては、年貢を減らしたいと思います。いかがでしょうか。」

家老「さすが中江殿だ。よく調べてきたな。水害の大きいところは、年貢を少なくすることをお殿様にお伝えしよう。中江殿、すぐにおふれを出しなさい。」

与右衛門「ありがとうございます。」



さつそくみんなに知らせます。」

与右衛門さんは、うれしそうに言いました。

〽 〽 ここで全部抜く 〽 〽
そしてまもなく、農民におふれが出されました。

『水害による米の被害が大きい田んぼについては、年貢を減らすことにします。』

農民たちは、大喜びで与右衛門さんやお殿様に感謝し、また、少しでも多くお米や野菜がとれるように元気を出して働きました。(おしまい)

▼制作・発行 藤樹紙芝居制作委員会

▼脚本・挿絵 高島藤樹会教材委員会

▼制作委員 足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・北川暢子・清川貞治・高谷美智子・山本義雄 (五十音順)

▼参考文献 『児童用副読本 藤樹先生』(高島市教育委員会 編集・発行)

『天命の人』(淵田隆雄 著)
『中江藤樹と大溝藩』(松下亀太郎 著)
古川修先生記念会 発行